

大村市 市制施行 65 周年記念

第17回



さくらサミット

in おおむら

～わがまちの桜とまちづくり～

報告書



オオムラザクラ

平成 19 年 4 月 14 日(土)・15 日(日)

シーハットおおむら「さくらホール」ほか

長崎県大村市

CONTENTS

ごあいさつ	2
開催概要	4
スケジュール	5
プロフィール	6
さくらサミット シンボルマーク・憲章・桜里園(オリオン)ネット	7
サミット全体会議「わがまちの桜とまちづくり」	8
共同宣言	28
さくらサミット写真館	29

✿ 主催者挨拶

大村市長 松本 崇



今年、大村市は市制施行65周年という節目の年を迎え、その記念事業の一つとして「さくらサミット」を開催いたしました。

遠方からご参加いただきました加盟自治体の皆様を、心から歓迎いたしますとともに厚く御礼申し上げます。

このサミットは、桜をまちのシンボルとし、まちづくりを推進する自治体が連携して、ともに発展することを目的に開催されております。

本市は、平成4年度に第5回サミットを開催しており、今回で2度目となります。

本市には、国指定天然記念物オオムラザクラや県指定天然記念物クシマザクラのほか、約2,000本の様々な種類の桜が咲き誇る「さくら名所100選の地」大村公園をはじめ、随所に桜の見所があります。桜は、地域振興の核の一つであり、今回のサミット開催を機にさらに魅力のあるまちづくりにつなげていきたいと考えております。

近年、地方自治体を取り巻く環境は、年々厳しさを増してきており、多くの難題を抱えております。そのひとつとして、全国の多くの都市で中心市街地の空洞化が進んでおり、本市も例外ではありません。国は、中心市街地を活性化し、進展しつつある少子高齢社会に対応したコンパクトなまちづくりを進めるために「まちづくり三法」を改正したところであります。

このような時期に、サミット加盟自治体が一堂に会し、まちづくりについて意見交換をする機会ができますことは、まことに意義深いものがあります。今回のサミットでは、「わがまちの桜とまちづくり」をテーマにそれぞれの自治体のまちづくりの現状や課題、取り組みなど、様々な視点から幅広く論議し、お互いの知識や経験を共有しながらヒントを見出し、それぞれの自治体のこれからのまちづくり・まちの活性化に生かしていけるような実りのあるサミットにできればと思っております。

最後になりますが、サミット開催にあたりご協力いただきました関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、加盟自治体の皆様、本日も越しいただきました皆様のご健勝・ご多幸を祈念申し上げます、挨拶いたします。

✿ 祝 辞

長崎県知事 金子 原二郎



本日ここ大村市におきまして「第17回さくらサミット in おおむら」が、盛大に開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

ご参加の皆様におかれましては、北は北海道新ひだか町、南は宮崎県北郷町まで、遠路長崎県へお越しいただき、誠にありがとうございます。心から歓迎申し上げます。

今回のサミットでは、「わがまちの桜とまちづくり」をテーマに、各自治体の皆様が、まちづくりの現状や課題について、桜を基点としながら幅広い視点で討議され、新たなまちづくりの展開を模索されとのことであり、大変意義深い大会になるものと期待しております。

さて、長崎県は、これまで先人たちが大陸との架け橋や西洋文化の窓口として世界と交流する中で、栄え、独自の文化や伝統を築いてまいりました。

人・もの・情報が地球規模で行き交う今日にあって、本県の強みを継承するとともに、さらに魅力を高めながら、多様な交流を通じてにぎわいを創り出し、活力を高めていくことが重要であります。

そのため本県では、長期総合計画である「ながさき夢・元気プラン」において、「交流を広げる魅力的なまちづくり」を重点目標の一つに掲げ、観光振興や地域間交流、景観整備などのまちづくりに関する事業を、地域と一体となって積極的に進めているところです。

県といたしましても、この「第17回さくらサミット in おおむら」の開催が、花と歴史のまち大村におけるまちづくりの一層の推進につなげるとともに、本日も集まりの各自治体における新たなまちづくりの展開に、さらには自治体間の連携・交流に大きく寄与するものと確信いたしております。

終わりに、「さくらサミット」の盛会と、ここにお集まりの皆様方のご健勝、ご活躍を心から祈念いたしまして、お祝いのごあいさついたします。

(代読:長崎県地域振興部長 川田 洋)

❁ 開催概要

- 名 称 第17回 さくらサミット in おおむら
- テ ー マ わがまちの桜とまちづくり
- 目 的 「桜」をまちのシンボルとし、桜によるまちづくりを推進しようとするサミット参加各自治体が、まちづくりにおける様々な現状や課題について、桜を基点としながら幅広い視点で討議し、新たなまちづくりの展開を模索する。
- 日 時 平成19年4月14日(土)～15日(日)
- 会 場 シーハットおおむら「さくらホール」ほか
- 主 催 長崎県大村市 第17回さくらサミット in おおむら実行委員会
- 後 援 長崎県、(社)長崎県観光連盟、大村市教育委員会、(社)大村市観光コンベンション協会、(社)大村市物産振興協会、大村商工会議所、さくらの街おおむら推進委員会、(社)大村青年会議所、大村市連合婦人会、大村市町内会長会連合会、おおむら桜ライオンズクラブ、大村ライオンズクラブ、大村中央ライオンズクラブ、大村ロータリークラブ、大村北ロータリークラブ、大村東ロータリークラブ、大村市レクリエーション協会、オクトパルス(株)、長崎新聞社、西日本新聞社、毎日新聞社、朝日新聞社、読売新聞西部本社、NHK 長崎放送局、KTN テレビ長崎、NIB 長崎国際テレビ、NCC 長崎文化放送、NBC 長崎放送、FM 長崎

❁ スケジュール

4月14日(土)

- 13:30～ さくらサミット 【会場】シーハットおおむら「さくらホール」
 - 開 会・オープニングイベント大村幼稚園合唱
 - サミット全体会議
 - テーマ「わがまちの桜とまちづくり」
 - コーディネーター 篠田伸夫 氏
 - 共同宣言採択
 - 全体会議閉会
- 16:00～
 - OMURA 室内合奏団アンサンブル
 - おおむらフラワー大使選彰式
 - 花の街スケッチ大会表彰式
 - 長岡安平探訪物語
 - 記念講演会
 - 講 師 桜木 歩 氏
 - 演 題 「桜の出会い」
- 17:30 ■閉 会
- 18:30～ 交流会 【会場】長崎インターナショナルホテル

4月15日(日)

- 9:00～ 市内見学
 - 大村公園(オオムラザクラ) ～ 旧楠本正隆屋敷(ひなまつり) ～ 大村藩主大村家墓所
- 11:00～ 記念植樹 【会場】野岳湖公園
- 11:20～ 昼 食 【会場】おおむら夢ファームシュシュ
- 12:00 解 散

❁プロフィール

サミット全体会議コーディネーター

篠田伸夫 (しのだ・のぶお)



1943年、鳥取県生まれ。67年京都大学法学部卒業後、自治省入省。青森県地方課長、出雲市助役、消防庁救急救助室長を経て、87年より岐阜県総務部長兼博覧会推進局長として「ぎふ中部未来博覧会」を成功に導く。

その後、自治省振興課長、東京都総合計画部長、岐阜県副知事、消防庁次長、全国町村議会議長会事務総長などを歴任し、06年12月より全国仮設安全事業協同組合常任審議役。

第10回さくらサミット in 北区より、コーディネーターを務めている。

記念講演会 講師

桜木 歩 (さくらぎ・ほ)



本名・後藤恭三。1943年、徳島県生まれ。長崎大学経済学部、カリフォルニア州立大ロスアンゼルス校卒。神戸市在住、64歳。

4月8日、花祭り生まれ。予定より早く生まれたので“花”叔母が取り上げる。幼稚園の通園途中の桜に魅せられ、小学校の学芸会の桃源郷に影響を受ける。中学生から接木を始め、高校生の時に家の周りに桜を植える。大学生で植木屋のアルバイトをし、桜の苗を育てる。47歳で桜の写真を全国・海外に撮り歩き、50歳で有楽町の百貨店で写真展を開催、写真集出版、帝国ホテル桜の間他で出版パーティーを行う。

桜を育て始め、ふるさと徳島で桜山を作り故郷・神山町を桜の町にしている。第二の故郷長崎のさくら植樹にも協力。シーボルトの桜の紹介や、大学、料亭、グラバー園他への植樹を行う。1999年、世界さくら協会設立。バチカン宮殿に桜を植樹する。

ネスレ日本(飲料サービス本部長)を退職し、写真集『桜』出版、写真展『桜は年中楽しめる』開催等、各方面で活動している。ホームページ『上質の桜』。



❁さくらサミットシンボルマーク

さくらサミットのシンボルマークは、長野県高遠町で開催された第2回さくらサミットで採択されました。地球をあらわす円と桜の花びらで構成され、全体として人をイメージ化しています。人と人まちとまちから始まるサミットの連帯・協力・調和が、グローバルな広がりを見せ、末永く継続していくことを表現するシンボルとして制作されたものです。



❁さくらサミット憲章(平成元年9月22日制定)

Success / 成功

第1条: 今後ともさくらサミットを開催し、サミットとサミットに参加するそれぞれの自治体のまちづくりを成功させるため互いに取り組みを進めます。

Approach / 接近

第2条: 「21世紀のまちづくり」という目標を限りなく実現に近づけるため、相互に連携、協力しあって花を咲かせることが出来るように努めます。

Keyword / 言葉

第3条: まちづくりの共通標榜である「桜」をキーワードとして「桜」に関する人や物の交流、情報の交換を行い、新しいまちづくりの手がかりを見出します。

Unity / 調和

第4条: 文化、教育、福祉、産業、観光そして災害対策などにおいて、相互の連携、協力をとり、調和のとれたまちづくりを行うよう心がけます。

Relation / 縁

第5条: 「桜」によって結ばれた縁を大切にし、お互い友好を深め、21世紀に向かって前進していきます。

Agreement / 合意

第6条: 共通の目標に向け、ふれあいと連携を築き、それぞれの自治体の進展と住民の生活文化向上に努めることに合意します。

❁桜里園(オリオン)ネット

平成18年1月26日に開催された「第16回さくらサミット in 富岡」において、サミット加盟自治体の連携強化・情報交換の促進のために各自治体のホームページを結ぶ「桜里園(オリオン)ネット」を構築することが承認され、稼動しました。さくらサミット加盟自治体へのとびらです。



サミット全体会議「わがまちの桜とまちづくり」

【篠田】

みなさんこんにちは。ただいまご紹介にあずかりました、篠田でございます。第10回の北区のサミット以来、コーディネーターを務めさせていただいております。毎年、ただで桜が見られるということで、羨ましがられている1人でございます。

それでは、まず、さくらサミットの経緯について若干ご説明を申し上げたいと思います。さくらサミットは、昭和63年に島根県木次町で第1回が開催されました。今日は、雲南市長がお越しですが、木次町は市町村合併で新しく島根県雲南市となりました。昭和62年6月に閣議決定された「第4次全国総合開発計画」のキーワードというのが、「地域間交流」でした。地域と地域を結んで、交流人口を作っていこうというもので、交流という言葉がキーワードとして出てきました。

当時、木次町は、「さくらの咲く健康なまちづくり」を総合計画に掲げておりましたが、このキーワードは使えるということで、同じように桜のまちづくりを行っている全国の自治体に声をかけ、サミットをやろうではないかということで、始めたものです。以来、回を重ね、17回を迎えました。大村市は平成4年に第5回サミットを開催されております。その当時も現在の松本市長さんでしたから、よほど桜がお好きな方なのかなと思っております。

先ほど昼食時に、このようなサミットは他にもあるのかと質問が出ました。詳しくは知りませんが、まちおこしのサミットは色々あったと記憶しております。しかし、平成の大合併を乗り越えてここまで続いているというのは、少ないのではないのでしょうか。さくらサミットの加盟自治体が、桜によるまちづくりに一生懸命に取り組んでこられたということが、このような姿につながっているのかなと感じております。大変ありがたいことだと思っています。

去年は福島県富岡町で開催されました。サミットとはトップ同士の会議ということですが、しかし、いつも会えるわけではありません。一年に一度集まるわけですが、いうまでもなく自治体の抱える問題というのは、その時だけ話して済むというわけにはいきません。もちろんサミットはイベントとして重要なんですけども、やはり自治体が抱えている問題を常日頃から一年かけて話し合いたい。そのような仕組みが作れないものかという提案が、富岡町から出されました。幸い今の時代はインターネットが使える時代であります。そこで、常時、情報交換できるシステムを作ろうではないかということが提案されたわけです。

これをめぐって意見を出し合ったのですが、ありがたいことにこの提案が実現でき、「桜里園ネット」が誕生したわけであります。桜の里の園と書いて、オリオンと読ませる素敵な名前です。会場のみなさんも自宅にお帰りになれましたらパソコンを開いてみて下さい。大村市の観光情報というところをクリックしていただきますと、「さくらサミット 桜里園ネット」というボタンが画面上に見つかると思います。そのボタンをクリックしていただきますと、今日お越しの10自治体だけでなく、もっと多くのさくらサミット加盟自治体のホームページがずらりと掲載されて出てきます。気になる自治体をクリックすると、そのまちのホームページが開く。そういう仕掛けになっています。そういう意味で、このさくらサミットの加盟自治体の一体性というものが、ここに象徴されているのかなと思います。



このネットは、先ほど申しましたが、通常の勤務の中で、自治体の抱えている問題を話し合おうよというのが、もともとの目的であります。そうなると、単にホームページを見るだけではなく、意見交換をし合うような討議の場というのがインターネットの上に作られているともっといいと思います。しかし、今のところそういった機能はありません。これは、残されていた課題です。後ほどフリーディスカッションの時間で余裕がありましたら、今日ご出席の皆さん方からご意見を賜ろうかなと思っております。

さて、今回のテーマは、「わがまちの桜とまちづくり」であります。ここにお集まりの自治体は、すべて桜自慢の自治体ばかりでありますし、桜によるまちづくりということを長い間やっておられます。そうしますと色んな悩みが出てまいります。桜というのは一週間か二週間位しか美しい期間はない。その期間にどっと観光客が来る。しかし、本当にその一週間だけ、その時だけ観光客が来ればそれでいいのか。あるいは渋滞問題なども出てまいります。色んな悩みを持ってらっしゃると思います。

そういう桜にこだわったまちづくりの課題にプラスいたしまして、折角こうして一堂に会した方々でございます。現在色んな問題を抱えていらっしゃると思います。先ほど市長さんのご挨拶の中でも、合併や三位一体の改革の問題が出ましたが、最近では中心市街地問題、中心商店街問題などもあります。そういった問題についても皆さん方からご意見をうかがいたいと考えております。

それでは、まず最初の50分間は事例発表ということで、大村市長を1番バッテリーに、北郷町まで10自治体からご発表をいただきます。そして、その後の時間をフリーディスカッションということで、共通に出てきた課題をめぐってフリーにお話をしてもらおうと思っております。時間がございましたら会場のみなさんにもご質問やご意見を伺うというような事もやってみたいと思います。これも決して桜に限定しませんので、手を挙げていただければ幸いに思っています。

それでは早速でございますが、事例発表に移ります。まずは地元大村市の松本市長さん、お願い致します。

【大村市 松本市長】

ありがとうございます。本日はコーディネーターを務めていただきます篠田先生、本当にありがとうございます。今、簡単に経過がありました。さて、事例発表のトップバッテリーということで、5分以内ということですので、まず私が範を示さないといけないかなと思っております。

わが大村市の桜でございますが、江戸時代、大村家の居城でありました玖島城跡に大村公園がつくられました。そして、ここに21種類、約2,000本の桜が植えられております。それから時代が変わりまして明治17年、玖島城本丸跡に大村家歴代を祀るための大村神社が建立されております。このとき日本の近代庭園の草分けといわれております長岡安平等によって桜が植樹されました。江戸から明治17年、そして昭和の時代に入って、昭和34年に、玖島上のお堀跡に明治神宮から株分けをしていただきました西日本一と誇りに思っている花菖蒲が植えられました。大村公園は、春の桜、初夏の花菖蒲の名所として内外に知られているところでございます。

そして昭和42年には、大村神社のオオムラザクラが国の天然記念物に指定をされまして、そして平成2年には大村公園がさくら名所100選に選ばれました。その頃から特に大村を花の街というキャッチフレーズで市民の皆様に着定しておるのではないかと思います。今、わが大村市のキャッチフレーズ



は、花と歴史と技術のまちと言っておりますが、この花のなかでは、中心は桜であると確信を致しております。

さて、まちづくりにおける課題であります。先ほどお話にもあったように、桜の開花時期には非常に桜というのは絢爛豪華。しかし花の命は短く、本当に一瞬とっていいほど短い。だからこそ、また潔いという感じで、桜が日本人の魂に食い入っているのではないかなと思うんですが、その開花時期に大村公園には約20万人の方々が来ていただいております。市内はもとより県内、福岡、佐賀県などからもお越しいただいております。この20万人を何とか倍にしたいな、という希望を持っております。花の時期になると、お客さんに集まっていたいておりますが、それが、なかなか市内の商店街などへの回遊につながっていない。桜だけ花見をして楽しんでいただいて、さっとお帰りになってしまう。これが残念であります。大村公園の集客のわりには経済効果が少ない。一口で言うとお金が落ちない。お金を落す戦略を考えなくてはいけないと考えております。これが一つの課題であります。

そして、一つが中心市街地の衰退。現在、中心市街地の活性化計画を策定中でございまして、高齢者が安心して暮らせ、若者にとって魅力のあるコンパクトな賑わいのあるまちづくりを今年度19年度から着手することと致しておりますが、桜の名所大村公園とその他、武家屋敷街、中心市街地を結ぶ長崎街道があります。桜を中心とした花の大村公園、武家屋敷街、そして、この長崎街道を合わせて、点から線、面へと展開し、花と歴史のまちを作っていく、中心市街地の活性化につなげていきたいと考えております。

最後に、桜以外の地域資源ですが、425年前、天正10年に、この大村藩から4人の天正少年使節がローマバチカンに行っております。そういったことで今年の夏に天正少年夢まつりを開催する予定ですが、これから花と歴史を活かしたまちづくり、特に、桜をしっかりと捉えて、大村の活力に結びつけたいと考えております。以上でございます。

【新ひだか町 酒井町長】

先ほどご紹介いただきました新ひだか町の酒井でございます。私たちの町、北海道ではサミット参加市町村が私どもだけなので、北海道代表という意気込みで話させていただきます。

この二十間道路桜並木というのは、日本の道100選、さくら名所100選、北海道遺産という北海道が定めたものがありまして、この桜並木は直線で7キロというでき方なんです。これは、北海道の開拓の初めの頃、アメリカの技術者が入りまして、御料牧場すなわち天皇家の牧場を作ったときのやり方として、直線で7kmということで、そういった意味では、見方からすれば世界一かなと。ランダムに普通は桜を植えているのが日本のやり方ですけども、二十間道路というのは、桜と桜の間が二十間あると、1間は6尺、1.8m×20間、36mあるということで、かなり幅がある。やはりアメリカの技術者のセンスで作られたものでございます。

ここにですね、明治の後半に龍雲閣という迎賓館のようなものができまして、かつて大正天皇が皇太子殿下の時、また、昭和天皇が皇太子殿下の時に来られてお泊りになっておられます。それから昨年9月には、今生天皇皇后両陛下がお越しになってここを通られております。これは町の誇りであります。合併をいたしまして、旧静内町と旧三石町という町で2万2千と5千が合体いたしまして2万7千の町でございます。やはり、何とかここにも20万人くらい入ってまして、桜まつりは今年は5月5日から



5月12日までということであります。

これからなんですが、経済に結び付けたいと色々やっているわけですが、なかなかうまくいかないということで、先ほど絵が出てましたが、これが旧静内町の市街地の図面です。この今の二十間道路の桜並木は町から車で12分から13分かかるんですが、この町のすぐそばに大きな静内川という川が流れています。この左右兩岸に国土交通省のまちづくり交付金を入れまして今年から桜を200本程度植えます。町の中にも桜をとということで始めており、しかも20間道路はエゾヤマザクラだけなものですから、ここには長く桜が咲いているように工夫して植えたいということで、国の制度資金と合併特例債を活用してやってまいります。そして何とか20万人来る観桜客をまちの中に誘導して、将来は、まちの中でも桜を楽しめる風にしたいと思っております。それからピュアプラザというものを、これも国土交通省のまちづくり交付金を入れたんですが、まちの真ん中に大きな3階建てのスーパーマーケットがありまして、それで大村市さんもそうなんですが、まちなかの旧商店街の人の動きが、大規模な郊外店に吸い寄せられまして、大変でございまして、この3階建ての20年前につくったものもスーパーマーケットの2階を800坪ほど町が買いまして、色んな教育・文化・娯楽の施設、それから日本一の馬産地ですので、小倉競馬にも、佐賀の競馬にも、私たちの町で生産した馬が相当来ていると思います。そんなことで、馬の展示施設も設けまして、何とか集客を図りたいということで今、頑張っているところでございます。是非、皆さん方も北海道にお越しの際は、こちらの方にも足を延ばしていただきたいと思います。数々の名馬が出ておりますので、国内の人のみならず、韓国、東南アジア、そういった観光客にもアピールしたいと考えているところでございます。

【仙北市 石黒市長】

ご紹介いただきました秋田県仙北市の石黒でございます。仙北市は一年半前に旧角館町をはじめ隣接3町村が合併をしてできました市でございます。ここ大村市さんとは縁があつて姉妹都市の締結をさせていただき、本当に色々とお世話になっております。

仙北市の中で桜ということになりますと角館の武家屋敷の中のシダレザクラが中心であります。江戸時代から続いた武家屋敷、この中に樹齢250年以上のシダレザクラが150数本ございまして、それを中心に沢山のお客さんが見えになります。また、街に沿って流れる桧木内川という清流がございまして、この川沿いの堤防に2kmに渡って樹齢約70年のソメイヨシノの花のトンネルがございまして、こちらには、その後下流に植栽を続けましてさらに延長は伸びておりますけれども、70年の樹齢の桜は約2kmです。こちらも北国の特徴でしょうか、咲く時期はシダレザクラと一緒にございます。今年は4月20日から5月5日まで観桜会を予定しておりますが、4月には、予想外に気温の低い日が続き4月23日、24日頃開花の予定と思っております。

実は、仙北市角館町は、大村市さんと同じように歴史と桜ということで皆さんの観光という面で非常にお世話になっているところでございますけれども、年間、角館地区だけで250万人ぐらいの入り込み人数があります、その内桜まつりの時期だけで約150万人位の人数になります。道路の渋滞から、まちなかの雑踏と、大変な状態になるわけですが、先ほど大村市の松本市長さんからお話がかったように、やはり、そうやって桜に集中した観光客をどうやって誘客し他の地域の商店街の活性化につなげていくかというのが、やはり私どもも課題の一つと捉えているところであります。

桜を、まずは、いかに良い状態で毎年見ていただくかというのが一つ目の課題かと思っております。そして、



桜の期間をできるだけ長く、先ほど申しましたように、合併をしたことで旧田沢湖町という日本一深い田沢湖を有する町も、今は仙北市の一部になっております。ここには山もあり温泉もあります。そうしますと、高原地区には高さから桜の開花時期が遅くなる場所もあります。こういった場所の桜を整備することによって、仙北市の中で長い期間、桜を楽しんでいただく、出来るだけ長い期間、桜を見ていただくというのが二つ目の課題かと思えます。

さらには、桜のない時期、例えば新緑の時期、紅葉の時期、雪景色の時期、こういった時期に、今も来ていただいておりますが、もっともっと良さをアピールして、これをどうやって、年間、通年の観光につなげていくかというのが三つ目の課題かなと思えます。

こうした課題をこなしていくために仙北市の中にある商店街には江戸時代から伝わる商人のまち、蔵も沢山あります。こういったものを整備しながら外町と呼ばれる商店街にお客さんを誘導し、そして、合併した他の地域の花、例えば今、カタクリの花の群生地もございます。それからミズバショウの群生地もちょうど今、咲き初めたところでございます。

町村合併により市の他の地域の良いところと、さらには温泉地で皆さんもご存知かもしれませんが、ガンにも効くと言われております玉川温泉をはじめ多くの温泉郷もあります。こういった所と、もっと組み合わせてPRして、そしてさっき申し上げました課題を一つずつ解決して、通年で、沢山の人に来ていただけるようにして元気を出していきたいと思っております。以上です。

【日上市 小川副市長】

日上市の副市長の小川でございます。実は4月22日が統一選挙になっておりますけれども、私ども檜村市長も明日が一週間前の告示日で、三度出馬をするということで、明日五時までには対抗がありませんので、めでたく当選すると思っておるんですが、そういう事情がありまして、副市長の私に大村市へ行くようにとの命がありまして、花と歴史と技術のまち大村へ来れた事を大変嬉しく思っております。ありがとうございます。

日立のことについて触れさせていただきたいと思えます。今、日上市は満開の桜が市内のいたるところで咲き誇っております。今月の4月20日まで日立さくらまつりが開催されておりますけれども、中でも先週の4月7日・8日には、今写真が出ておりますけれども、平和通り会場におきまして、日立風流物という山車の公開や、桜のトンネルの中での9千2百名が参加いたしましたロードレースなど、様々なイベントが盛大に行われまして、43万人という方々がおいでくださいました。また、本日、明日にかけましては、35種約400本の桜があります十王パノラマ公園におきまして、祭り、イベントが行われまして多くの人で賑わっているはずでございます。

他にも約1,000本の桜が植えられまして、さくら名所100選に認定されておりますかみね公園などがありまして、日立はこの季節、まちなかが桜一色となりまして、大勢の花見客で賑わうところでございます。日立の桜でございますけれども、山とか並木、学校、企業の工場、市内のいたるところにあるわけでございますけれども、これが特徴でございます。これは、日立鉱山の煙害によって全滅した山々の緑を回復するため煙害に強いオオシマザクラの苗木、約330万本を植林したことに始まります。その後、企業や市民の手によりまして周辺にソメイヨシノが植えられましたのが、市街地に咲く日立の桜の始まりでございます。このように日立の桜は日立の歴史と切っても切れない結びつきがございます。煙害を克服した歴史とともに受け継がれてきた日立特有の文化ともいえるものでございます。



日上市ではさくらサミットに加盟いたしました平成8年頃からこの日立の桜を見つめ直し、とにかく桜を生かし桜にこだわったまちづくりをしようと市民と企業、行政が一体となって取り組んでいるところでございます。具体的には、桜を活用した商品開発、企業や団体を対象としての桜の植え替えをするパートナー事業、環境をテーマとした桜の山づくりなどでございます。そして、現在、日上市が抱えます課題でございますが、他の市や町と同様に、やはり人口の減少、少子高齢化の問題、中心市街地の空洞化や産業構造の変化への対応などの問題が挙げられます。したがって、新たな企業の誘致、商店街の活性化、特産品の開発などによる産業の振興、そして交流人口の拡大など魅力ある賑わいのあるまちづくりなど、まちの活性化を図っていくことが大きな課題となっているわけでございます。これらの課題に対しまして、桜の活用という観点からは、今般、日立紅寒桜が本市固有の品種ということで新しく品種登録されましたので、これをきっかけに様々な分野で活かしていこうと考えております。写真のように、花は、淡い紫がかったピンク色をしておりまして、早咲きで開花期間が長く、1月末頃から3月まで花を楽しむことができるという特徴があります。先ほどの平和通りやかみね公園のソメイヨシノが4月初旬、日立の桜の原点でございますオオシマザクラは4月中旬から下旬、大学通りと呼ばれておりますところにありますヤエザクラは4月下旬～5月上旬に満開を迎えるというように、これら品種によりまして開花時期が少しずつ異なりますので、日立紅寒桜を含めると冬場から新緑の時期まで市内のいたるところで桜のリレーが長い期間にわたり実現できるものでございます。このことは、4月に実施されます桜まつりに2日間で毎年約40万人余の人が訪れますことから考えますと、更なる誘客の増加など活性化に向けて大きな効果が期待できるものと考えております。また、現在、商標登録も申請中でございまして、地場産品に日立紅寒桜という本市独自の商標を使用することによりまして、地場産業の振興を図るとともに地域のイメージのブランド化によりまして、交流人口の拡大などへつなげていきたいと考えております。桜以外の地域資源の活用事例といたしまして、一つには鵜飼で使用するウミウを全国で唯一捕獲をし、供給している地であるということでもあります。ここで捕獲されましたウミウは、全国12箇所で行われております鵜飼のうち11箇所に送っているところであります。昨年からの捕獲場を一般に公開することによりまして鵜飼文化を全国に情報発信する試みをしているところでございます。また、この一帯には宿泊利用率日本一の国民宿舎鵜の岬や快水浴場100選の海水浴場等がありまして、これらの施設を連携させまして誘客の更なる増大を図っているところでございます。他にもかみね公園の一角には国民栄誉賞を受賞いたしました作曲家の吉田正さんを顕彰いたしまして吉田正音楽記念館や今年開設50周年を迎えます県内では唯一のかみね動物園がございます。さらに市内には多くの優れた自然景観、名所旧跡、産業資産などがございまして、これらを日立24景として新たに選定をいたしましたので、これから市外の方々に日立にお越しくださるよう努力をしまいたいと考えております。本市と致しましても、まちづくりを進める上で、多くの課題を抱えておりますけれども、桜を始めとした多くの地域資源を有効に活用することによりまして、日立をさらに魅力あるまちにしたいと考えております。今後とも皆様と連携してまいりたいと存じます。どうぞよろしくお願い致します。ありがとうございました。

【北区 銭場副参事】

東京都北区の発表をさせていただきます。はじめに北区の特徴、次に、まちづくりの課題。そして桜を活用した取り組み事例を2つほど。そして最後に、桜以外に観光資源を活用した事例をご紹介させていただきたいと思えます。まず北区の特徴でございます。北区はその名の通り、東京都の北、荒川を接しまして、北側は埼玉県と接する位置にございます。新宿ですとか港区ですとか、そういった23区で

も有名なところの位置関係は全国でもお分かりの方が多いと思いますけれども北区と聞いて、どこかなというイメージの方が多いと思います。北区の特徴をまとめてみますと、まず先ほどお話しいたしました荒川のように大きな河川が4つ流れております。荒川、隅田川、新河岸川、石神井川、この川が流れていることが明治時代の産業にとって大変有効な位置環境にあったということ、後ほど申し上げたいと思います。また、北区には「イメージ戦略」のため、交通、桜、ネサンスという3つのキーワードがあります。一つ目の交通ですが、北区はJRの数が都内最多の11駅あります。そういった交通至便のまちであること。二つ目の桜はまさしく由緒正しい桜の名所であることです。徳川8代将軍吉宗が作った飛鳥山公園は、桜の名所、江戸時代の観光地であったというところ、それが二点目です。3つ目の、ネサンス、誕生ということです。つまり文化の創造と発信のまちということでございまして、産業の発展、渋沢栄一をはじめとした産業文化の発祥の地であるということがあげられます。

次に、北区の基本姿勢でございます。こちらはまちづくりの課題に関係するのですが、まず北区は「区民とともに」ということを、基本姿勢としております。これが、後ほどご紹介させていただきます色々な活動事例の基本となるものでございます。

また、地域課題に対する取り組みの大きな視点が4つございまして、一つが「子ども」・かがやき戦略、二つ目が「元気」いきいき戦略、三つ目が「花*みどり」やすらぎ戦略、四つ目が「安心・安全」快適戦略です。この4つのキーワードを重点戦略として施策を進めているところでございます。その取り組みのもととなりますまちづくりの課題というのがそれとリンクしておりまして、一つ目が東京であっても少子高齢化が進んでいることです。現在、都心回帰ということで都心区であります港区や渋谷区ですとか中央区、千代田区をはじめとする都心区につきましては、人口が増えている状況でございすけれども、北区にあっては平成19年1月現在で人口が約33万人いるのですけれども、唯一23区のなかで人口が微減しているというところで、人口の減少、少子高齢化が東京の中でも進んでいます。また、65歳以上の高齢人口が23.3%ということで、23区で台東区について2番目に高齢化が進んでいるという課題があります。また、様々な事業を進めるうえで区民とともにという姿勢がありますように、やはり区民と協働で、これからの施策を進めていかなければならないというのが2点目の課題であります。三点目は、産業の活性化であります。産業の活性化が遅れてしまっているというのが3つ目の課題であります。4番目としましては、そういったことを含めまして、やはり都市環境の整備が遅れているということで、まちづくりを進めていくというのが4つ目の課題となっております。

次に、課題を解決する事例として、桜を使った事例を紹介させていただきたいと思います。先ほども申し上げましたように、北区の観光資源であります桜、桜の名所であります飛鳥山公園は、江戸時代徳川吉宗が作りました江戸庶民の行楽地のための公園ということで、当時はお酒ですとか仮装して踊るといったことが原則禁止されていたのですけれども、吉宗の時代にこの飛鳥山の地でお酒を飲むこと、あるいは仮装をすることが許されたということで、かなり庶民には好評だったというのが、この飛鳥山の地になります。また、この飛鳥山公園や、上野公園、が明治6年に日本最初の都市公園に決定されたというのも一つの観光資源、北区の特徴となっております。桜の名所である飛鳥山公園を含めて、今後、北区の魅力を総合的に発信する観光事業というのが一つ目の桜を使った取り組み事例になります。二つ目が、桜以外の花も含めてまちなかを花いっぱいにしていくという事業を進めております。その中で、



ひとつ大きな特徴が先ほどの協働の取組に代表されますように、アダプト制度の導入というのをしております。アダプト制度というのは公園を直接区が管理するのではなくて、住民の方が自主的に管理、水やりですとか、剪定ですとか、そういったものをしていただくという協働の取り組みを行っているところ です。

また、桜がキーワードになっている事業で、さくら体操という健康体操を行いまして、健康づくりの普及啓発に努めているところでございます。また、指導にあたっている方々が皆ボランティアで、こちらにも協働の精神ということで貫いてやっている事業になっております。

次に、桜以外の取り組み事例ということで、1点目が産業と文化をキーワードにまちづくりです。渋沢栄一ゆかりの地であります北区で、渋沢資料館、北区飛鳥山博物館、紙の博物館や、歴史的建造物であります古河庭園等を活用した魅力ある観光資源の発信に取り組んでおります。古河庭園はバラとともにライトアップもされ非常に趣のある佇まいです。二つ目の桜以外の観光資源についてですが、内田康夫さんの推理小説のシリーズの名探偵役の浅見光彦が北区の西ヶ原に在住しているという設定になっておりまして、その浅見光彦にちなんだ事業を様々行っております。代表的なものが、名探偵浅見光彦の住む町ミステリーウォークということで、参加される方がミステリー手帳を持ちまして区内を自分自身が名探偵になって歩くといったものがあります。また、浅見光彦の住民票も発行しております。そして、内田康夫先生にご協力頂きまして、内田康夫ミステリー文学賞を実施しています。平成18年度が第5回だったですけれども全国各地から推理小説の応募を頂きまして文学賞を決定しているところで す。毎年、全国各地、外国からも応募があるという状況です。

【伊那市 伊藤課長】

長野県伊那市よりまいりました伊藤と申します。本日は市制65周年大変おめでとうございました。伊那市というのは伊那市と高遠町と長谷村という3つのまちが合併をいたしまして新伊那市となったわけでございますけれども、今日その1周年記念が伊那市でございまして、理事者の出席できませんことをお詫びを申し上げたいと思います。伊那市と大村市さんとの接点が2つございます。一つが伸和コントロールズという会社が、大村市と伊那市にありますのでそういう関係があります。もう一つは私ども高遠藩という藩でしたけれども幕末の頃、坂本天山という方がおられました。讒言によって藩を追放されたわけですが、平戸藩に召し抱えられまして、砲術家の先生だったんですけれども、その先生が大村藩へも教えにきていたという2つの接点があるかと思ひます。ご覧の写真は高遠城址公園でございす。高遠藩3万3千石、約5haの城でございましたけれども、今桜は満開の状況です。電車がなく車しかないの、今、聞きましたところ、10kmほど渋滞しているとのことです。今日の見込が4万を越えると推測されております。4万となりますと大型バスが7百台、普通車が7千台くらいの数でございす。うちの桜の特徴といいますのは、他に全国にないと思ひますけれども、桜が有料になっているんですね。今一年間30万を超えるお客様が見えているんですけれども一般の方一人500円いただいております。団体の方は400円。これはなぜかといいますと桜を管理する、あるいは桜まつりをするときの維持管理費というのはものすごい額でございす。昔2千万だったんですけれども今は6千万くらい費用がかかっております。これを一般財源で全部出すということは小さな田舎町でございすものですから難しいだろうということで有料化に踏み切ったということでございす。ですから、第1次的な桜でのまちづくりとい



うのは明治8年に植えられたのが始まりだったんですけれども、その後、桜を核にしたまちづくりということで、進めておりまして、今、新市になって日本一の桜の里づくりなんて大きな目標に向かってやっているわけでございますけれども、何が日本一の桜の里づくりかということになると大変難しいかなということで、今悩んでいるところでございます。桜は一過性のものですから、観光資源としては大変難しいものではないかなと思っておりますけれども、幸い通年観光ということになりますと一年通じて何かできないかなということで城址公園にたまたまもみじが200本ほど植わっておりますので秋にもみじ祭りということで、秋に祭りを開催して1万ちょっとの人がお見えになっているところでございます。新市になりまして旧伊那市というところにも春日公園という、これも城跡なんですけれども桜がございます。こういうところの桜が高遠城址の桜に埋もれてしまっていて、お客さんが来なかったところなんです、こういった桜のところも、これから日本一の桜の里づくりということのなかで工夫をしてお客さんと呼んでいくように今考えているところでございます。私どもの市は桜の維持管理ということに非常に気をつけております。桜専門指導員会というものをつくりました。樹木医さんとか、造園業者の方とかこういう方々が桜の診断をして、どういう対応をしたらいいかということで調べているところなんですけれども、一本一本カルテをつくりまして桜の状況を把握してやっているというのが現状でございます。桜の管理の中で桜守というのが3名常時設置しまして、管理をしているところでございまして、新しい20代の職員がその中に2人おりますけれども1人は樹木医の資格を取るようになっていますので、今年の3月に受かったようなんですけれども、そういう風なことでやっているのが現状でございます。伊那市というところは、桜の他に何も無いという所で、観光資源に乏しいわけなんですけれども、木曽谷と伊那谷があって、伊那市は伊那谷のほうにありますけれども、木曽谷とのトンネルが開通したので木曽とのつながりをこれから重視した観光に桜を核としてまちづくりをしていけたらと思っていますところでございます。

【吉野町 福井町長】

奈良県の吉野町でございます。大村市に寄らせていただいたのは15年前のこのさくらサミット以来でございまして、その時にもいい所へ来させてもらったなということと同時にオオムラザクラというのは、桜の種類は色々あるんですけれども吉野の桜と正反対の桜だというふうに感じました。私ども吉野山で植わっている桜は、ほとんどすべてがシロヤマザクラという桜です。花卉が当然単弁でして五枚しかない。オオムラザクラあるいはクシマザクラにしましても沢山の花びらが付いて、実は15年前にあれを見て本当にこれが桜かとびっくりしたのを覚えております。その15年前のときにはサミットのテーマが桜が咲いたときの交通問題だったんです。その交通問題を討議してきたということを吉野に帰りましてポロっと近くの町村長にしゃべってしまいました。そうすると大変な憤りに近い勢いで、大村のような大都市でも交通問題を一生懸命考えているんだ。お前のところもきちんと考えろということをいわれました。確かにそのときにこういう設営の壇上でしゃべらせてもらったのがせいぜい一週間か十日のことだから桜の咲いたときくらいイイじゃないかというような話をさせてもらったんですけど、それを言ったら輪を掛けて怒られまして、何とかしなければいけないということで、10年ほど前からシャトルバスを運行するようになりました。郊外へ乗用車を止めて吉野山へはバスで運ぶというのをやりはじめました。しかし大変むずかしいもので、お客様があんまり来なかったら、どんどん乗用車も登れるわけですから、それを途中で止めてしまうということ



になったらドライバーにとっては大変な鬱憤ということになります。そういうところで毎年100万くらいの赤字を出していたんですけれども、去年からそれをゴロっとかえました。今度はバスの方を完全予約制というのを導入いたしました。今までバスの駐車料金3千円だったんですけれども、4月に限り平日1万円、土・日は1万5千円いただいています。その代わり完全予約制。その予約というのは全国からしていただきますものですから大変難しい。それをJTBに委託しました。それで去年は、バスの1万5千円で収入が4千万近くあったんですけれども吉野山に残ったのはたったの400万、あと色んな経費とJTBへの支払いです。今年からは経費の部分が大幅省略されますので今日も実はやっております。1万5千円の駐車料金を払ってきてくださっているんですけれども、今年はずっと残るのではないかと、それでまた何かやれるのではないかなというふうに考えております。こんなことを言っていたんでは仕方がないんですが、吉野山の桜は単弁でこちらのオオムラザクラに比べると二つ並べるとどうしても見劣りします。しかし吉野山では、オオムラザクラのような桜は桜の本数に数えない。それはこだわがあります。少なくとも本居宣長さんが吉野にこられたときの歌があります。敷島の大和心を人問わば朝日に匂う山桜花という歌がございます。その敷島の大和心というのは本居宣長さんですから学者として平安時代のもののあわれというものを解釈したところがいっぱいありますから大和心というのはもののあわれのことだと。それを代表する景色としては朝日に匂う山桜花だという風に詠まれました。それに対応する桜というのはヤマザクラでないといけないということで、ヤマザクラでないと桜ではないと吉野山では言っております。歴史を言いましたついでに本居宣長がせいぜい200〜300年前の人です。吉野山の桜が文献に残っているのは先ほど上ってくるときに紹介されました古今集に三種の歌があります。紀貫之さんの歌、紀友則さんの歌、そして読み人知らずと三種だけ古今集に載っております。その前の万葉集の時代には吉野を詠んだ歌はいっぱいあるんですけれども桜を詠んだ歌は一つもない。ですからその古今集の時代の直前、10世紀位のちょっと前くらいに吉野が桜の名所になっていた。桜は植えられたものです。決して自然のものではありません。自然のものではない、植えられたものから始まっているから我々は桜というものは人間との付き合いをしなければいけないということ肝に銘じております。昨今、私が町長をやらせていただいた20年くらい前に吉野山の桜が危ないということが全国紙に載りまして大変な騒ぎになったことがあるんですけれども、反省したのは付き合いが足りなかったということだったんです。今、一生懸命、桜と付き合いをしながら桜を維持していくということを努力しているところです。

【雲南市 速水市長】

島根県雲南市長の速水でございます。まづもって大村市におかれましては市制施行65周年おめでとうでございます。わたくしども雲南市でございますけれども、先ほどコーディネーターからご紹介がありました第1回の当サミット開催地島根県木次町だったわけですが、その木次町を含む近隣6町村が一緒になって誕生した、島根県では49年ぶりの市でございます。雲の南と書きますけれども島根県では東部を出雲地域といっております。その出雲地域の南に位置しますことから、出雲の雲の南ということで雲南市ということで、平成16年11月1日にスタートいたしました。以来2年5ヶ月がたっております。位置的には出雲の南と言いましたけれども、雲南市の東に隣接いたしておりますのが県都松江市、西が出雲市でございます。平たく言いますと松江市と出雲市に囲まれているという所でございます。発足以来、雲南市のまちづくりのテーマ



が「生命（いのち）と神話が息づく新しい日本のふるさとづくり」を目指そうということで頑張っております。従いましてまちづくりの現状とそして課題、それに対する対策、これにつきまして、簡単に述べさせてもらいたいと思います。まちづくりのテーマが命と神話が息づく新しい日本のふるさとづくりと言いましたけれども、記紀神話にでてくる神話の多くが出雲地方の神話でございます。その神話にでてくる地名がそのまま残っているのが雲南市でございます。したがって是非とも神話を生かしたまちづくりを、今、ひとつ、神話と生命（いのち）ということでございますが、私どもの地域は本当に安心安全な食材の宝庫という自負を持っております。それだけに中山間地域という土地柄でございますが、すばらしい景観自然があります。そのなかで、この6町村が一緒になった雲南市、どこにも桜が咲き誇っております、現在、市内には約9万本の桜があります。その一番の名所が全国さくら名所100選に選ばれました木次町の桜並木。約2kmにわたってございます。今年も満開でございました。そうした神話あるいは、すばらしい自然景観をいかしたまちづくりをやっていく、このことは、何を究極、目指すことかということになりますと、やはり、こういったすばらしい町に住んでいる市民の皆様が、「あ〜いいところに生まれたな、住んでるな」というような自信、誇り、愛着を自分たちの住んでいる地域に持つことだろうという考えから、そうしたまちづくりを進めていかなければということで、今頑張っております。じゃあ課題は何かということですが、雲南市誕生しました結果、市の面積が553km²、55,300haでございます。伺いますと大村市は126km²、1kmあたりの住んでいる人の人数が約710人、553km²に45,000人でありますのでたった1kmのなかに80人でございます。したがってそういう地域を合併した雲南市一体となって発展していくためには地域の一体化が何よりも必要でございます。普通、合併は人間に例えますと結婚でございます。結婚は普通一対一でございますが、私どもの合併は6人でございますので人間界ではありえない6人による合併でございますが、しかも人間世界ではありがちな離婚は絶対あり得ないと、もうバックギアはない、前へ進んで行くしかないのでございまして、できるだけ早く地域の一体化を目指していかなければならないと、そういったときに色々な手法があるわけでございますけれども、今、申し上げましたように9万本もの桜がございまして、したがって、市の花も桜でございます。そしてまた、雲南市桜の会も発足いたしました。そしてまた、桜守、いわゆる樹木医さんでございましてけれども、まだ、これからスタートしたばかりでございまして桜守2人いらっしゃいます。市内全域の桜がかなり老木化しておりますので、これがずっと長生きするように、そしてまた、新陳代謝が図れるようにということが大切だろうというふうに思っておりますし、それからまた、年間を通じて通年客がいわゆる交流人口がどんどん来てくださるには、この桜を生かしたまちづくりとともに、色々な魅力を沢山来てくださった方々に知ってもらって桜の時期以外にも沢山の思い出をいただくようなそういった対策が必要だろうなということでございます。その対策でございますけれども、この秋に映画「うん、何？」というのをスタートさせようと思っております。桜並木はもとよりでございますが、雲南地域の名所旧跡を盛り込んだ、雲南地域は本当にいいところだよと、そういう風に思ってもらえる対策として映画「うん、何？」を全国放映してまいりたいと思っております。是非ご覧いただきますように。そしてまた、そういった情報発信によって全国の今日のご参加の各市とのネットワークもはかることによって発展を目指して頑張っていきたいなと、このように思っております。ありがとうございました。

【水上村 椎葉収入役】

市制65周年誠におめでとうございます。私のところも村長は、統一選挙でございまして4期無投票でございましたが、このたび4期目で選挙をするということで大変苦慮いたしております。ということ

で、お前が行けということでまいりました。よろしくお願い致します。水上村につきましては熊本県の隅っこにございます。九州脊梁山地というのが九州山地のなかにあります。そういうことで大変辺鄙なところではありますが山林が91%の山村でございます。農林業しかありません。人口は2千6百でございますが、鹿の数を言いますと推定7千から8千頭いるという風にいわれているようです。毎年2千頭づつ駆除をおこなっておりますが、4千頭はメスでございまして、毎年4千頭は生まれてきてまして、毎年2千頭ずつ増えてございまして、駆除が追いつかないということで、大変苦慮いたしております。桜のことにつきましては、うちは大変新しうございます。昭和35年のダム建設によりまして、その周囲に植えた1万本の桜が最初でございます。それなりに一生懸命宣伝やりまして、国・県の補助金頂きまして整備をいたしまして熊本県の中でも桜といえば水上村と言われるくらい有名になったと思っております。それでも先ほどからありますように桜は大変短い期間です。1週間しかございませぬので、平成9年くらいから卓越の村づくりということでツーリズムをやろうということで現在進めております。このツーリズムにつきましては色々なメニューを揃えてやっております。体験できる観光ということでやっております。今までよその人が来ても、なかなか馴染めないというようなことで大変苦慮いたしておりますが、10年位経ちまして、ようやく地元の人たちもそれに対応できるような、そんな感じがいたしております。このツーリズムにつきましてはどうしても人材の確保が必要であります。村民の意識改革も必要になります。大自然、自然といいましても人がいないわけでありまして自然なんです、自然と桜をメインにしまして観光を進めていこうということで現在進めております。今後は、経験豊かな地元のご協力を得ながら、若者たちもそれを受け継いで、同じ意識のもとで村づくりを行っていこうということで、そういう意識づけをしているところでございます。桜以外では、自然を生かしたツーリズムということで水の上の学校で先ほども言いましたようにずっとやっておりますが内容としましては、春の笛イベント、栗拾い、ログハウスづくり、ひがん花を見て歩く学校とか、星空観察、ヤマメ釣りなど様々な体験ものを揃えて実施しております。そういったこともありまして、農業者の中にもある程度意識も変わりまして現在農家の方も農家民泊を始めたいということで、2戸ほど始めるということで始めております。民宿5件と旅館が2件ほどしかないわけですので、そういうことで外来者の方からいっぱい入っていただいてまちづくりの向上、まちづくりの振興につながればということで、我々としても一生懸命頑張っております。都市との交流といましても、今の若い人たちが子どもを連れていらっしゃいます。その子どもが、あそこは良かったという感動が、自分の子どもに伝わるのが20年後になります。それまでは細々とでも続けていかないといけないのではないかということで、大変息の長いことでございますが、これからも努力していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いしたいと思います。以上です。

【北郷町 篠田副町長】

宮崎県の北郷町でございます。北郷町は宮崎県の南部に位置しておりまして、県庁所在地の宮崎市から約40分位のところにある町でございます。わが町は緑と清流と温泉の町として、またチェリータウン北郷として町内外の多くの方に親しまれているところでございます。わがまちにおきましては県の新ひむかづくり運動の一環としましてチェリータウン日本一を目指しまして昭和56年から桜の植樹を行いますチェリータウン事業を展開してまいりました。この桜の植栽には地域の公民館の方、あるいは各種民主団体、あるいは誘致企業の協力の下に、役場等の公共施設の周辺とか沿道などに約1万8千本



の桜を植栽してきたところでございます。花立公園でございますが、桜の植樹ということで1千万本程度の桜の植栽が行われまして昨年発売されましたじゃらんといわれます月刊誌の中で北郷町の桜が九州一と報じられた事がございまして公園に隣接しますリゾートホテル北郷フェニックスというのがあるんですが、そこでの宿泊の予約が例年より多い予約がございまして、町への入り込み客への増に大変効果があったところでございます。また、地元の愛好家により開発されました日南寒桜1号が2月の上旬には開花が始まるわけでございますが、2月の末にはヤマザクラの開花の時期を迎え、また3月末にはソメイヨシノの開花の時期を迎え春爛漫がスタートしているところでございます。今年も3月末から4月の第2日曜日まで夜間ライトアップを行いました、特に土曜日、日曜日には多くの花見客で賑わったところでございます。さらに多くの皆様にご覧いただくように、この花立公園の頂上までの町道の道幅が狭いということがございまして、車の離合等に問題があるということで、今後は道路の整備等とか、あるいはテングス病の対策等が今後残された課題として残っているところであります。猪八重溪谷でございます。わが町は500haの天然林に囲まれておりまして猪八重溪谷は九州有数のコケ類の宝庫として有名でございます。今全国的に森林セラピーの持つ効果が高い注目を集めているところでございますが、わがまちにおきましても、この溪谷が醸す癒しの効果を健康づくりに生かすために、森林セラピー基地としての認定を今年度受けるべく現在申請の準備を進めているところでございます。もし認定されれば都市部との交流人口を増やす起爆剤になるのではないかと期待をしているところでございます。北郷町は地下800mから51度の天然温泉が日に1千トンの豊富な湯量に恵まれておりますので、この天然温泉を活かしてホテルやゴルフ場を備えた北郷フェニックスと連動いたしまして中長期的な滞在が可能な施設としての基地を目指していきたいと考えております。それから私ども平成16年度から全日空と連携いたしまして、私の青空宮崎空港北郷町花立の森作りに取り組んでいるところでございます。これは目的といたしましては全国で展開中の森作り事業の対象地に宮崎空港、そして植栽地として北郷町の花立公園が選ばれたわけでございますが、北郷町の魅力を全国に発信しまして観光誘客を図るために県内外から植栽のボランティアを募りまして、これまでにヤマザクラ、イロハモミジなど2千本程度の記念植樹を行ってきたところでございます。今年度も同様に全日空、民主団体、猟友会の皆様に働きかけて実施していくことにしております。また、北郷町におきましては東九州自動車道の整備がちゃくちゃくと進められておりまして、近い将来、そのことによる観光誘客にも期待が持たれているところでございます。今後とも桜を活用したまちづくりに取り組んでいきたいと考えております。どうかよろしくお願い致します。

【篠田】

ありがとうございます。皆さん、大変な熱を込めて力説されるものですからなかなかストップがかけられなくて、ちょっとフリーディスカッションの時間が限られてきましたが……。今みなさんお聞きになりまして、どういう風な印象をもたれましたでしょうか？今、地方分権の時代、三位一体の改革、そういうことによって大変地方が力を付けてきた。地方が独自に考える、そういう時代になってきたというふうに思われますし、それぞれそのような運営をなされていると思うんですが、残念ながら地方自治体が自由に使えるお金というのは必ずしも十分ではないんですね。ですから、各自治体の首長さん、あるいは職員のみなさんは、自分の自治体にいかにお金を落としていただくか、そういった施策を絶えず考えていらっしゃるわけです。つまり経営者の感覚といえますか、そういう頭で仕事をやっていらっ



しゃる。今、お話をお聞きして、そういう風な感じを大変強く持ちました。独自のお金を作るといえますか、先ほど松本市長さんはお金を落としてもらうという極めて直截的な表現を使われましたけれども、やっぱりそういう感覚をお持ちなのかなと思います。

こういうことをテーマにフリーディスカッションを行っていきたいと思います。一つは、桜はわずか1週間かそこらの話である。そこに20万人もの観光客がどっと来る。折角来る20万人の人を、先ほど松本市長さんがおっしゃったように、空洞化した既存の商店街、元気のない商店街の活性化に何とかつなげられないか。バスで来てバスで帰るというのではなしに、お金を落としてもらうような仕掛けとして、うまく動線をつくっていく。点から線へとよくいきますけれども、そういった仕掛けについて、もう少し深く討議してもらいたいということが1点。それから桜の時期だけではなくて、折角桜の時期に来て素敵なまちだなど観光客に感じてもらっているわけですから、桜の時期でない季節にも来ていただければ、これに勝る嬉しさはないわけですね。つまり通年観光。一年掛けて金を落としてもらうという仕掛けを考えていくべきではないか。それがまた、商店街の活性化にもつながるかと思いますが、そういう点で桜の時期に限らない通年観光、それについてもう少し議論を深めていってもらえれば大変いいのではないかと思います。

最初に日立市さんに伺いたいのですが、日立市さんは、他と違って、まちなかに桜があります。他のところは商店街から離れたところに桜の名所があるものだから、なかなか市街地のほうに人を引っ張ってこれない。そこに悩みがあるという話なんですが、日立市は逆にまちなかに桜がある。かたや商店街が空洞化しているという話がありましたけれども、まちなかの桜がこれまで商店街の活性化につながっているのか、つながっていないのか、伺いたいと思いますが。

【日立市 小川副市長】

43万人の方が訪れる平和通りといわれる戦災復興事業でつくられた道路に昭和26年に115本の桜が植えられまして、その1kmの沿道に桜並木があって、それで例年お祭りをやっているという状況でございます。しかし、その多くの人出が地元商店街のほうに、効果としてつながっているかについては、甚だ疑問だということが実際でございまして、やはりイベントでございまして単発式ですし、また、沿道には色んな団体がテント出店をするお店がありますので、そういったところに直接お金を落とすという感じがありまして、なかなか既存の商店街そのものに客が入らないという実態があるのではないかと思っております。その辺のところが問題かなと思っておりますが、ただ先ほど言いましたように桜並木で例年マラソンをやっておるんですけれども、それが年々増加してきておりまして、今年も約1千5百人ほど増えまして9千2百名の方々が全国から訪れてくださったという効果がございます。これは3千円のお金をいただきながらやるわけでございますが、遠くは北海道から来ておりますので、そういった面で市内で泊まると、そして食事をする、買い物もお土産を買っていくというような効果も別の角度からいえばあるのかなと思いますので、まちなかにそういった桜があるという面での効果はあるのかなと思っております。

【篠田】

商店街の皆さんというのは当然ながら空洞化ということについて危機意識を持ってらっしゃるわけですから、折角、桜を見るために、財布にお金を入れてやって来てくれる人が目の前にいるのに、何か商店街そのものが知恵を働かせてお客さんを引っ張ってくるというようなことをしてもいい気がするんですけれども。商店街のみなさんは、そういった感覚はあんまりないということなんですかね？

【日立市 小川副市長】

一軒一軒のお店というよりは商店街の力をまとめて出店を作りながら、イベント的な仕掛けをおこなって、お弁当を売ったり、色んな品物を売るということです。まったく既存の商店街との関わりがないというわけではございませんから、一軒一軒のお店の効果よりは、まとまった商店街への効果という面ではあるかという風に思っております。

【篠田】

つまり動線にはなっていないが、商店街はうまくこのチャンスを使っているという話ですね。たまたま日立市の場合には、まちなかに桜があるという特色を別の形で活かしているということでありますけれども、大村市長さん、街道という言葉を先ほど使われましたけれども、20万人の人をうまく商店街に運んでいくための知恵として、どういったお考えがありますか？

【大村市 松本市長】

桜の時期に20万人、花菖蒲で20万人で40万人の花見客がいらっしゃるわけですが、一時、シャトルバスでの取り組みを考えてみたけれども、まだ、なかなかうまくかみ合わないんですけれども、今、商店街では、ひなまつりが最近立ち上がって、おかみさんたちが特に頑張ってくれてまして、3月～4月にかけてやっており、4月の花につなげていこうとするものですが、大村公園と、商店街とは、そんなに距離はないんですね。1.5kmくらいだと思うんですが、シャトルバスのようなものもいいんですけれども、先ほども少し触れましたけれども、国指定の円融寺庭園、ここにも桜があるんですが、色々と名所旧跡がございますので、そこに花見のお客さんが歩いて回遊していただく、そういう誘導をしていかないといけないんじゃないかと、それから、最近は歴史観光ということで、大村が歴史観光元年として、今年も進めているんですが、歴史観光ボランティアを募集して100人くらい手を挙げてくれたんですが、今、実質20～30人が非常に頑張ってくれているわけなんです、そういうソフトの面で頑張ってもらいたいと思っております。要は、点から線に、そして面に、どう広げられるか、ということです。

それからもう一つ、吉野の町長さん色々と本当にすごいですね。1万5千円をとる駐車場。私のところはずっと無料なんです。半世紀ずっとです。今、検討しております。市民の皆さんよろしくお願いします。一日止めて300～400円くらいで。少し桜の維持管理ですね、花菖蒲も含めて、ご協力いただきたい、そんなことも考えております。やはり経営とコーディネーターがおっしゃいましたが、やっぱり経営感覚でやらないと、これは長続きしません。そんなところです。

【篠田】

同じく商店街のお話をされました仙北市さん。なにかいい知恵がありましたらお願いします。

【仙北市 石黒市長】

なかなか良い知恵がなくて困っているわけですが、やはり桜のときには、桜を見に来られるのがお客さんの心理だと思います、商店街の桜の花のないところを回ってほしいというのも難しいことだと思います。そういったなかで、例えば角館の場合は、ヤマザクラの樹皮を使った樺細工という伝統工芸品があり伝統工芸士が商店街の開いた店舗での実演販売なり、地域の特産品を作っている方自ら販売するなどそういったものを商店街の中でやることによって、お客さんがそれを見ながら、工芸士の方など地域の方々と会話をしながら興味を持ってもらい交流することとか、また、駐車場はできるだけ、歩かないようにという考え方もあって、比較的近いところを探して駐車するのですが、そうではなくて、商店街を通って桜のたくさんあるところにお客さんが歩いていけるようなそういう駐車場の配置の仕方、こういったことも今後考えていかなければと思っております。

【篠田】

「冬のソナタ」というドラマが流行って、日本人の年配女性の方々が、舞台となった韓国・江原道の春川などに絶えず押し掛けていると新聞などで取り上げられています。そういったフィルムコミッションというんですか、角館ではそういうことをおやりになっていると伺いましたが、具体的に教えていただけると参考になるかと思うんですが。

【仙北市 石黒市長】

フィルムコミッション。これは市として古い町並み、特に武家屋敷を残しておりますので山田洋二監督が藤沢周平のシリーズを撮るのにセットを組まなくてもいいし、どこで撮っても時代劇が撮れるということで結構来ていただいています、私個人の考えとしては、それはいいことですが、やはり昔の雰囲気、面影を残しているということで、それを見にこられる観光客、それに興味を持った方がいらっしゃるので、だれその俳優が来て今映画を撮っているからここは見られませんか、ここは通行止めだとかいうのはかえってマイナスになるのかなと、ですから、フィルムコミッションも隠れたよさ、例えば、使っていない茅葺屋根の家屋、こういったものを使って映画を撮っていただいて、また新しい観光ポイントにして、範囲を広げていくという方向にもっともっと力を入れていけば効果が出てくると思います。今残っている古い家並みは実は観光のためにということで整備をしてきたというつもりではないので、それは前の町長もそうでしたし、残すべきものをしっかりと残す、結果として、いいものは皆さんの目に留まり興味を引くということで、観光は結果としてついてきているということだと思います。そここのところを履き違えないように、うまく利用していくという必要があるのかなと思っております。

【篠田】

今、大変いいことを言われたと思います。観光、観光と言って地元の人の生活を見捨てて観光だけ先走っちゃうというか、そういうことはおかしいのではないかと。地元の人の生活を大切にするということが、実は結果的には観光客を呼んでくるという、そういうことが重要であるのではないかと、私は感じました。非常にいい話だと思います。そういう意味では、水上村のグリーンツーリズムも同じではないかと思うんですが、いかがでしょうか。

【水上村 椎葉収入役】

ツーリズムは流行り言葉になっております。田舎で体験するということなんですが、田舎に住んで、田舎の生活を体験してもらう。ですから事改まって新しいことをしてもらうということではなくて、今日は笛を掘りにいくよ、山に行くよ、一緒に行きませんかというような、そういうレベルで始めようということでやっております。2～3箇所はイベントを組みまして、蔓の学校とか、やりまして都会からわざわざ呼んで色々世話するわけです。ところが、やるほうが疲れまして、大変になりまして、今、休んでおります。例えばログハウスの学校もやっておりますけれども、そこもログハウスを作る人がいて、そこに手伝いにくるような感じの学校ということでやっております。そういうことで、やる人も疲れず、来る人も気を遣わなくていいし、自由に遊べる。体験といいましても遊び来るといような、そんな感じのツーリズムをやっているということで、その方が、お互いに気兼ねなくてうまくいっているような気がいたします。まだ、お金にはなっていませんが、農家の方が民泊を始めてみようかなと欲がでてきたのはいいことかなと思っております。

【篠田】

雲南市長さん、僕たまたま新聞読んでましたら、次代に手渡す農があるということで『自主独立農民

という仕事—佐藤忠吉と木次乳業をめぐる人々』という本を、森まゆみさんという東京の根津にお住まいの方が出されていました。地産地消の非常にいい本だと紹介されていました。先ほど市長は安心安全の食材ということをいわれていましたが、観光と銘打つのかどうかは別にして、そういうもので多くの人来てもらって喜んでもらうということも、あると思います。このことについて、お話しいただけますか。

【雲南市 速水市長】

桜を生かしたまちづくりというのは確かに、美しい花を咲かせて、沢山の人来ていただく、もって交流人口の拡大をという、そういう努力をやっていくということなんでしょうが、やはり、桜というのは、美しい桜を咲かせるという努力をするということとそれに合わせて、皆さんと同じ考えを共有できると思うんですけれども、桜というものは、日本人の心というものの、美しい桜を咲かせることによって、大切に育てていこうよということだと思えますね。だから、思いやりとか、気遣いとか、そしてまた、そういった考え方に基づくもてなしの心とか、そういったことが、沢山来られる桜を目指した観光客の方々に示す。そしてそれらを、既存の商店街の方が、こぞって、おもてなしをする。そういった積み重ねが、あそこのまちは桜の花も元気だけれども、本当にいいもてなしをしてくださるとか、というイメージにつながって、もう一回行ってみようよと、桜の時期以外にも行ってみようよ、ということにもつながっていく。是非、そうしたことは心がけなくてはならないんじゃないか、そのことが、時間はかかるけれども、その地域全体の桜を生かしたまちづくりにつながっていくんじゃないかという風に思います。そうした中で、今お話にありました森まゆみさんの本の中に出てくる佐藤さんという方、私どもの地域で安心、安全、新鮮な食材、有機農産物の生産にすごく力を入れて関わってらっしゃる方でして、その方は、今85歳なんですけれども、全く健康なんです。見てもせいぜい70歳ちょっとにしか見えない。先般そうした雲南市出身の方で近畿在住の方が、それこそ桜を見に帰ってらっしゃったんです。その方のお年は95歳なんですけれども、見ても70歳ちょっとにしか見えない。何でそうなんですかと、いや実は佐藤さんが作ってらっしゃる農産物を定期的に送ってもらってて、それを食べて、というふうに言われて、いい生きた教訓があるなということで感動したんですけれども、本当にそうした努力をなさっていらっしゃる、すばらしい、言葉が適切かどうかわかりませんが、地域資源、人的な地域資源ということに私どもは本当に、気付いて、自信を持って、謙虚に自信を持って、もっと努力をしていくといったことが、沢山の当地域に対する外部から見られた魅力ということにつながっていくんじゃないかなと、そういったのはやっぱり桜を大切に作る心と、まさに機を一にするものがあるんじゃないかなというふうに思います。

【篠田】

観光資源は人でもあるということ、あるいは生き方でもあるという話として大変感銘を受けたところであります。

さて北郷町さん、先ほどのお話ですと、かなり大々的に全日空とタイアップしながら、非常な馬力に取り組まれていますね。やはり目標値を立てながら、あるいは目標以上にもっていく、そういった観光戦略や計画をお持ちになってやってらっしゃるんですか？

【北郷町 篠田副町長】

色々と交流人口を増やすためには、ありとあらゆるものを活用していくということで、例えば、たまたま全日空がやっていた連携事業にのっていかとか、あるいは、今度のセラピーもそうですけれども、色んな制度を使って、交流人口の拡大を進めているというところでございます。

【篠田】

全日空がそういった事業を行うという情報などは、他の自治体も得ているんでしょうか。それとも、なかなか入ってこないものなんですか。北郷町さんは、どういうことでその情報を得たんでしょうか？

【北郷町 篠田副町長】

日頃から、航空会社あたりなどと連携を図りながら情報交換をしておりますので、そういうなかで、こういうのがあるけれどもどうか、ということをやっているところでございます。

【篠田】

やはり、経営者の感覚になると、いかにいい情報を的確に捉えるかというのが非常に重要だと思います。

新ひだか町さんは、観光客が春や夏に集中して、通年観光がなかなかうまくいかないということがございましたね。馬が特色のまちですけれども、馬を観光資源として使うこともなかなか難しいようなんですが、例えばこういうことはできるものでしょうか。要するに、馬が広いところで駆けている姿を、観光客が高いところから見下ろして、ひたすら一日楽しむというようなことです。実は、僕はそういったことに非常に憧れています。島の活性化を観光の観点から勉強したことがあるんです。スウェーデンのある島にドイツ人をはじめ多くの人が行くわけですが、日がな一日、デッキチェアに座って畑を見ているなんてことを聞いて、なるほどと思ったことがあるんです。馬が元気に駆け抜ける姿を高い所から見る。それも、非常にいい観光資源じゃないかと思うんですが、そういう発想っていかがなものでしょうか？

【新ひだか町 酒井町長】

まさにそういう時代になってきたと、このように言えると思います。元々ひだか地方というのは7つのまちで出来上がっておりますけれども、ここで日本中の競馬に使う馬、8割生産しております。今7千頭位ですから、約6千頭弱です。ところが馬というのは繁殖牝馬という母馬に種付けをして、交配をして、生まれて2歳の手前くらいで売るんですが、商品であるということで、乗る文化というのは遅れていたんですが、実は今おっしゃったような欧米の考え方が相当今どんどん入ってきてまして、そういった馬が駆ける姿を見てるだけで、本当にリフレッシュされるとか、ということも狙ったようなツアーづくりなんかも、これからの大きな仕事だと思っております。それから、馬のマラソン大会というのがあるんですよ。先ほどの私たちの二十間道路をスタート、ゴールにしまして、耐久レースですね、馬にまたがって10km、20km、40km長いのは80kmレースということですね、そのずっと山の中に入っていくって、時折、水飲み場があって、人馬一帯のこのレースの始まりはアメリカの西部の郵便配達歴史から始まっていて、馬とうまくつきあって、ゴールのタイムも見ると、20分以内の心拍数も獣医さんが見て判断し、いいものだタイムを逆転する場合もあるんですが、これを去年からやりまして、今年第2回目でありまして、これはJALさんも注目してくれて、是非こういったもので馬産地の特色を生かしたいなど、これはまさに桜の二十間道路でやることなんです。あとは、今日は、大変勉強になりました。駐車料金の話とか、本当に私たちは北海道人らしい、遠慮してお金を一銭もとらないでいたなと深く反省しております。それは半分ジョークですが、これから真剣に考えなくてはいいと思います。

【篠田】

どうもこの問題については、皆さん関心が深いようです。吉野町さん、いかがでしょうか。

【吉野町 福井町長】

今、ここに座っておりましてお隣から質問がきたんですよ。町でやっておるんですかと。違うんですよ。町でやってたら大変なことになってたと思います。去年始めた時も、いろいろな方から電話が私にかかりまして、吉野町は、よその住民からも税金をとるのかという話でかかってきたんです。何のことかと思ったらその駐車料金の話でした。今、駐車料金を取っているのは町がとっているんじゃないんです。町も一枚加わって吉野山観光協会を中心とした観光業者が取っています。それは、取る目的としては人の流れを良くするというのが一つですけれども、あともう一つがゴミ対策。それからもう一つ、今日言うのを忘れてたんですが世界遺産になっているんです。自慢話としてそれを言うのを忘れてたんですが、世界遺産になりますといいことがいっぱいありますよ。外国人のお客さんがいっぱい来てくれます。大村に来てやっぱりすごいなと思ったのは、ハングルと中文と英語との案内がびしっと整ってますよね。世界遺産になったら少なくともあんなことはやらないといけない。それから、調査委員会から指摘された事項があるんです。そんな中途半端な指摘じゃないんですよ。空中送電線が視界を妨げている場合があると書いてあるんです。要するに電線を地中化しろということなんです。そういうことをやっていくのにちょっとお金を貯めていこうという、町も貯めますけれども、地元も貯めなきゃいけない。それを貯めていくということも含めて協力金をいただいているということで、決して、ぼったくっているわけでは、ちゃんと目的があって、そのお金は、観光客の皆様のために使い切ると、使い切ったら観光客が何か新しいことを見つけてくれるはずだということが、私の基本的な考え方です。観光客は単にお金を落としてくれるだけじゃなくて、新しい地域の魅力を発見してくれるのも観光客であるというふうに思っています。桜の自慢話をしていますけれども、実は桜の山以外は、私どもは全部人工林でして、桜を見に来た人が、人工林の美しさを褒めてくれる場合があるんですね。そんなのは我々は全然気が付かなかったことです。天皇陛下が来られたときに、天皇陛下が旅行されたら皇居の中に、その時の思い出用に1週間くらい写真を貼らしいです。その写真が、何と桜の写真じゃなくて人工林の杉の写真だったということがありまして、これを繰り返さなきゃ観光地の値打ちはないと私は思っています。観光客の皆さんにはとにかく感謝しなくちゃいけないという基本姿勢ですので、決してぼったくっているわけではありません。

【篠田】

ありがとうございました。

それでは、会場の中から、どうしても聞きたいことがある方がいらっしゃったら、お手をあげていただけますか。吉野町さんの話をもっと聞きたいと思う方もいるかもしれないですけども……。どうぞ。

【会場】

伊那の方に伺いたいんですけども、先ほど吉野の方は、車のほうで1万5千円、伊那の方は、個人・団体で400円、500円とおっしゃられてたんですけども、そういったことは、一般の方からの反発というようなことはいかがなんでしょうか？

【伊那市 伊藤課長】

はじめは、寄付ということでいただいていたんですけども、58年から正式に入園料としていただいております。はじめは、桜を見るのになんで金があるんだよというようなことがありましたけれども、実は先ほどゴミ処理だとかということで経費がかかるというお話をしたわけですけども、今日も4万人という実数、入園者ですから、水道も下水道も現在の人口プラス4万の施設を作らないとやっていけないわけですよ。そういった見えない部分でもお金がかかっているということと、あと私どもの公園は、お金をいただいた以上、ゴミはひとつも落ちていません。そういう配慮をしながら桜を守っていく

と保護育成するということで皆さんに呼びかけておりますので、今はほとんど色々文句を言う方はありません。ちょっとがめついと思っているんですけども、皆さんはお金をとってないの。

【会場】

もうひとつ。これまでただで見られてたということをおっしゃる方もいると思うんですけども棲み分けみたいな部分は、どういう風にやってらっしゃったんですか？急にいきなり有料ですよといって簡単にいけないと思うんですけども。

【伊那市 伊藤課長】

うちの場合、エージェントのお客さんが多いものですから、半分がエージェントのお客さんです。ですから、そういう部分でも、2～3年広報をしまして、始めたというのが現状です。

【会場】

ありがとうございました。

【篠田】

ありがとうございました。本当は、もっとお聞きしたいのですが、時間がきてしまいました。

最後に北区さん、何かありましたらお願いします。

【北区 銭場副参事】

紹介の中で、全部言わせていただきましたので、一言だけ。北区のほうも今年度の区長の年頭の挨拶でも観光というのを全面に出して推し進めていくということで、東京都の都市観光のなかでもやはり北区は、都心とは一味違った観光というのを今後、発信していきたいと考えております。以上です。

【篠田】

ありがとうございました。フリーディスカッションのなかで、もっと議論を深めていかなくてもならないんですけども、時間の都合で以上で終えたいと思います。お聞きのとおり、とにかく地方財政が不如意の代にいかにお金を落としていただくか、そのためには経営者の感覚、あるいは情報というものが大切である。観光も、決して観光客のためだけの観光ではなく、生活あつての観光だとか、あるいは観光客から新しい情報をいただくんだとか、今日は、長い間こういうことに携わっていらっしゃる方の生の声が聞けたんじゃないかなと思います。通年観光のための色々な知恵も聞いていただいたんじゃないかなと思います。大変ご協力いただきまして、ありがとうございました。

共同宣言

第17回さくらサミットは、全国10自治体が一堂に会し、ここ長崎県大村市で開催した。

本会議では「桜」という共通点のもとに集まったサミット加盟自治体が、地域づくりの情報交換の場というサミットの原点に戻り、「わがまちの桜とまちづくり」のテーマの下、共通の課題でもある「中心市街地問題」や、新たな桜のまちづくりの工夫について討議を行った。

第16回サミットの後、加盟自治体のサイトをつなぐ「桜里園ネット」が立ち上がり、このネットワークを活用して、本サミット後も、常に自治体同士が意見交換を行えるツールを整備し、多様なテーマについても連携を図っていくことを目指す。

本サミットでの討議を新たなまちづくりへの第一歩とし、様々な分野での知識や経験、知恵を共有し、活力のあるまちづくりに取り組んでいくことをここに宣言する。

平成19年4月14日

北海道新ひだか町	秋田県仙北市	福島県富岡町
茨城県日立市	東京都北区	長野県伊那市
奈良県吉野町	島根県雲南市	熊本県水上村
宮崎県北郷町	長崎県大村市	

第17回さくらサミット in おおむら
開催地代表
長崎県大村市長 松本 崇



加盟自治体ポスターパンフレット展

多くの方々が加盟自治体のポスターやパンフレットに見入っていました。



さくらホールエントランス

多くの人々で賑わったメイン会場



押し花作品展

市内のグループによる素敵な作品が並びました。



さくらサミット物産展

多くのご来場の方々に加盟自治体の特産品をお買い求めいただきました。



花の街スケッチ大会作品展

大村商工会議所青年部により開催されたスケッチ大会で子どもたちが描いた桜の絵が展示されました。



満員のさくらホール観客席

客席は立ち見客が出るほど超満員でした。



事前会議

さくらサミット全体会議前に、参加自治体の代表者の方が集まり、会議の運営についての打合せ会議が開催されました。

オープニング

市立大村幼稚園75名の子ども達による元気いっぱいの歓迎の歌が披露されました。



主催者挨拶

松本崇大村市長より全国からご参加いただいた加盟自治体の皆様に歓迎のご挨拶をいたしました。



サミット全体会議

サミット加盟10自治体の代表者の方々による熱心な討議が繰り広げられました。

共同宣言

全体会議の討議を踏まえ、開催地を代表して、力強く共同宣言文を読み上げる松本崇大村市長



記念撮影

参加自治体の代表者と記念講演師桜木歩氏、大村フラワー大使の2人とともに記念撮影



OMURA 室内合奏団アンサンブル
花（滝廉太郎）、さくら横丁（中田喜直）、さくらさくら（日本民謡）の3曲が演奏されました。



花の街スケッチ大会表彰式（大村商工会議所青年部）
大村市長賞 梅原光史郎くん
大村商工会議所会頭賞 一ノ瀬美月さん
さくらサミット賞 吉田航貴くん



交流会
多くの方々にご出席いただいた交流会。様々な情報交換がなされました。



大村フラワー大使選彰式
（大村市観光コンベンション協会）
「大村桜」 田中美波さん
「花菖蒲」 別府綾香さん



桜木 歩さんによる記念講演会
「桜の出会い」と題して、桜にまつわる楽しいお話がありました。



交流会アトラクション
全国優勝を果たした「おむらくじら太鼓」による勇壮な太鼓演奏



大村公園

オオムラザクラなど21種類2,000本の桜が咲き誇るさくら名所100選の大村公園。



旧楠本正隆屋敷

市指定史跡旧楠本正隆屋敷で開催中のひなまつりで大村家に伝わる雛人形を鑑賞しました。



大村藩主大村家墓所

国指定史跡大村藩主大村家墓所でボランティアガイドの説明を受ける参加自治体代表者の皆さん。

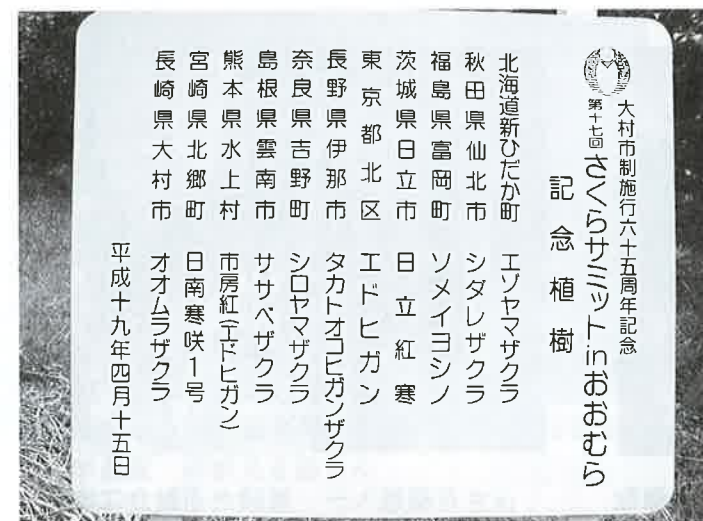


記念植樹

記念植樹会場の野岳湖公園に様々な種類の桜が植樹されました。



大村市萱瀬緑の少年団19名の子どもたちがサポートをしました。



昼食には、大村の食材をふんだんに使った料理を堪能しました。(おおむら夢ファームシュシュ)



記念撮影

記念植樹後、多良山系をバックに記念撮影。

市制施行65周年記念
第17回さくらサミット in おおむら
～わがまちの桜とまちづくり～

報告書

長崎県大村市
第17回さくらサミット in おおむら実行委員会

〒856-8686 長崎県大村市玖島1丁目25

TEL 0957-53-4111

FAX 0957-54-7135

E-Mail kankou@city.omura.lg.jp

URL <http://www.city.omura.nagasaki.jp>